

演題名：当院での子宮鏡下選択的卵管造影検査の現況

演者名：徐 東舜

当院で実施した子宮鏡下選択的卵管造影検査（SSG）を取りまとめたので報告する。期間は2011年1月から2018年5月で、当院不妊外来初診で来院しSSGを行った2927症例（年齢 33.9 ± 4.1 ）に関して分析した。卵管造影検査の異常の割合12.5%（367/2927）で、その内訳の割合は片側造管閉鎖80.7%（296/367）、両側閉鎖19.3%（71/367）であった。事前に他院で実施されたHSGとの比較を行った。HSGで異常所見がありSSGで正常であった割合は72.2%（65/90）であった。処置中の痛みをVASで比較するとHSGvsSSGは 5.6 ± 1.9 vs 2.4 ± 1.3 となりSSGは有意に痛みが小さかった。子宮鏡の所見での異常の割合は20.1%（588/2927）で、異常所見の内訳の割合は子宮内膜ポリープ72.6%（427/588）、子宮筋腫8.2%（48/588）、子宮奇形7.0%（41/588）、アーシャーマン症候群2.4%（14/588）となった。SSGはHSGに比べ痛みが小さく診断性や子宮内腔の病変検知に優れていると考える。